

島の農業

島の総面積の37%を占める竹林は、タケノコの王様・大名竹です。肉質が柔らかく、アクが少なく味染みのよい大名竹は、高級食材として人気があり、東京の築地市場を中心に青果として出荷しています。竹島では水煮加工した製品も販売しています。また島に自生するツバキの実には含油量・質とも最高で品質の良い椿油が採れ、肌にやさしい石けんやシャンプーは人気が高まっています。このほか、自生しているツツブキ、椎茸など季節の恵みは島の大切な特産品です。

椿油 (単位=kg・千円) **大名竹の子** (単位=kg・缶・千円)

島名	椿油		青果		缶詰			
	生産量	生産額	生産量	生産額	9L缶	6L缶	生産額	
竹島	-	-	349	156	275	1,320	349	806
硫黄島	488	317	1,884	1,245	-	-	-	-
黒島	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	488	317	2,233	1,402	275	1,320	349	806

季節ごとの農作業 schedule



農産物	春 3~5月	夏 6~8月	秋 9~11月	冬 12~2月
サツマイモ 	育苗 3~5月	植付 5月~6月中旬	管理 (除草・土寄せ)	収穫 10月~1月
黒島みかん 	剪定 追肥	管理 (下拵・薬剤散布)	追肥 9~10月	収穫 11月~12月
ヤブ椿 	定期的(月1回程度)椿山に入り、 下草刈りなどの手入れを行う		収穫 9月末~11月	
大名筍 	収穫 5月~6月			竹林の手入れ (共同作業)

しおかぜ留学生について

三島村では、島の大自然の中でのびのびとしながら勉強を希望する児童・生徒や、村に第二のふるさとを求める児童・生徒(学年は小学校4年生から中学校3年生まで)を対象に、1年単位の短期留学制度を設けています。2016年現在、15人の児童・生徒が本土から留学し、島の小・中学校で学んでいます。

しおかぜ留学生は、島の家庭にホームステイします。留学生を受け入れる世帯(里親)には毎月委託料が支払われており、島の生業の1つとなっています。

島への移住者も、受入世帯(里親)になることができます。2016年現在、受入世帯(里親)8世帯のうち、3世帯が移住者です。

しおかぜ留学生受入状況(生徒数の内訳)

		小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
		三島小・中学校(硫黄島)	男			1		1
	女						1	1
	合計	0	0	1	0	1	2	4
竹島小・中学校(竹島)	男			1	1	1		3
	女		1			1	1	3
	合計	0	1	1	1	2	1	6
大里小・中学校(黒島・大里地区)	男			1		1		2
	女						1	1
	合計	0	0	1	0	1	1	3
片泊小・中学校(黒島・片泊地区)	男			1				2
	女							0
	合計	0	0	1	0	0	1	2
三島村計	男		1	4	1	3	2	10
	女					1	3	5
	合計	0	1	4	1	4	5	15

しおかぜ留学生受入状況(受入世帯数の内訳)

	受入れ世帯	うち1ター
三島小・中学校(硫黄島)	3	2
竹島小・中学校(竹島)	1	0
大里小・中学校(黒島・大里地区)	3	0
片泊小・中学校(黒島・片泊地区)	1	1
三島村計	8	3

○留学生の募集基準

募集基準は次のとおりとし、三島村しおかぜ留学制度実施委員会が面接の上決定する。

- ・小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒
- ・地域の環境を理解し、就学を希望する児童・生徒
- ・豊かな思い出と創造により、第二のふるさとを求める児童・生徒
- ・三島村の無垢の大自然の中でのびのびとはね回り、勉強を希望する児童・生徒

○里親の募集とその義務

- ・この制度を理解し、積極的に支援する意志のある家庭の中から、実施委員会が里親として委嘱する。
- ・里親は実親とよく連携を取り、児童・生徒を家庭的に養育し、健やかな成長に向かって努力すること。

○受入期間

- ・期間は1年だが、継続も認められる。

○委託料

- ・委託料は、月額9万円(児童・生徒1人あたり)
(負担の割合:実親 月額25,000円、村の補助65,000円)

○経費の負担

- ・給食費は実親負担だが、PTA会費は里親負担
- ・学校教材費・医療費・学用品費・衣料費・遊具類費・通信費・旅行費・特別活動費(スポーツ少年団・その他の教育活動に係る費用)等の費用および小遣いなど、留学児童生徒にかかわる経費は、実親負担

